

イヌマムカゴ

Tulotis iinumae (Makino) Hara

ラン科

石川県カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類

国カテゴリー

該当なし

選定理由

本県ではもともと稀な植物であるが、減少しつつあることが認められる。日本産のトンボソウ属植物は3種あるが、本県ではうち本種イヌマムカゴとトンボソウの2種が分布し、いずれも絶滅危惧植物となっている。(現況:R-)

形態

本種は茎高30cm程度の植物で、茎の中ほどに2葉があり、その上部に披針形のいわゆる鱗片葉が数枚着く。葉は長楕円形で、長さが8~15cm、幅2~4cm程度。やや相接して着く。茎には黄緑色の小花が多数着き、穂状花序をなす。花被片の長さは1.5~2mm。両種の顕著な相違点は距の形態で、本種では楕円形で、長さ1~1.5mm。

国内分布

北海道、本州、四国、九州に分布。

県内分布

奥能登、口能登・加賀中央部、南加賀に分布。

生態など

地生の多年生草本。開花期は7~8月。

生育環境

山地の林床。

危険要因

森林伐採、道路工事、園芸採取、産地局限。



林 二良・2005年10月2日・中能登



県内の分布